

おとな綱

1 町廻り

10:30~



若衆(大人の引手)は、煙火打上を合図に各地区をドラを鳴らしながら一軒ずつあいさつに廻り、その後開始時間まで町内を無礼講で町廻りを行う。

2 初節句お祓い

12:00~



初節句を迎える子供の健やかな成長を祈ってミトの前にてお祓いを行う。

3 神事

12:30~



4 餅まき

12:50~

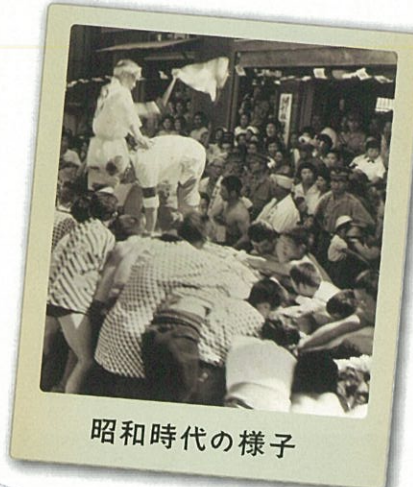


5 ヒヤ(煙火)の合図で開始

13:00~



若衆は大綱を直に持ち引き合う。1回20分の3回勝負で行われる。決勝点は中心より5m引き込みとなっている。



# 歴史と伝統を誇る「呼子大綱引」

「浜組」は大漁を願い、心を玄界灘の大波に変え、「岡組」は天に豊作を願い、地鳴りの如く熱くなる。文禄・慶長の役から続く人々の変らぬ思いがこの大綱に込められる伝統の戦い。「ヨイサーヨイサー」のかけ声と共に、この熱い思いが、呼子の天を揺るがし、新しい歴史のページを刻み始める。

こども綱

1 町廻り

10:30~



各地区毎の引き手が町内を廻る。

2 ヒヤ(煙火)の合図で開始



子供たちが長さ200mの大綱に枝綱をつけて引き合い3回勝負で行う。決勝点は中心より6m引き込みとなっている。こども綱終了後、餅まきを行う。

## 呼子大綱引きミト作り

引き合う大綱の中心は「ミト」と呼ばれ、上に振興会の会長と岡組と浜組の若衆頭が乗り氣勢を揚げます。「ミト」は、「稲わら」と「むしろ」で幾重にも巻いてロープで締め上げてつくられ、長さ約5メートル、幅約1.5メートル、高さ約1.5メートルの大きなものです。写真右上の三神社前に中心の「ミト」が置かれ、向かって右側が岡組、左側が浜組。

ミトの大きさ  
長さ:約5m  
幅:約1.5m  
高さ:約1.5m



ミト中心部の材料となる稲ワラ



ミトを作るムシロを連結



ミト中心部の綱の繋ぎ目



稲ワラとムシロにより1回目の覆い



大綱引きの安全祈願



2回目の覆い



最後の覆い



ロープでミトの周囲を編み込む

## 呼子大綱引会館



呼子大綱引会館では、実際に使用する大綱(1本100m)4本が展示されております。

唐津市呼子支所 産業課  
〒847-0392 佐賀県唐津市呼子町呼子1995番地1  
お問い合わせ:0955-53-7165



持ってたり、現在は「ミト」を中心に、浜組と浜組に二手に分かれて綱を引き合い、3本勝負で勝敗を決める。

また、本来、五月節句に行われた行事であり、子供の無事成長を祈願する意味もあると考えられるが、現在は、毎年6月の第1土・日に開催されている。

盆に行われる綱引きが多い九州北部地方にあって、五月に行われる綱引きの唯一の例であり、菖蒲綱と呼ばれる綱引き行事の典型例の一つである。

# 浜組

HAMAGUMI



国指定重要無形民俗文化財

# 呼子の大綱引き



呼子大綱引き



### アクセス

- お車**
- 唐津市街より 20分
  - 伊万里より 1時間
  - 博多・天神より(西九州自動車道) 1時間30分
  - 佐賀より(多久インター) 1時間30分
  - 熊本より(九州自動車道) 2時間40分
  - 長崎より(長崎自動車道) 2時間20分

唐津市呼子支所 総務教育課  
 お問い合わせ TEL:0955-53-7167

# 岡組

OKAGUMI

呼子の綱引きは、文禄・慶長の役(1592~1598)の際に豊臣秀吉が肥前名護屋城に陣を構えた頃、将兵の士気を鼓舞するため、加藤清正、福島正則の両陣営を東西に分け、軍船のとも綱を用いて引かせたことから始まったという伝説がある祭りです。

大綱引きに使用する綱は、直径15cm、長さ100mの綱を4本繋げ、中心部をワラやムシロで包み、ロープで縛った「ミト」と呼ばれる中心部をもつ。

この行事は、豊漁・豊作祈願の要素を強く

